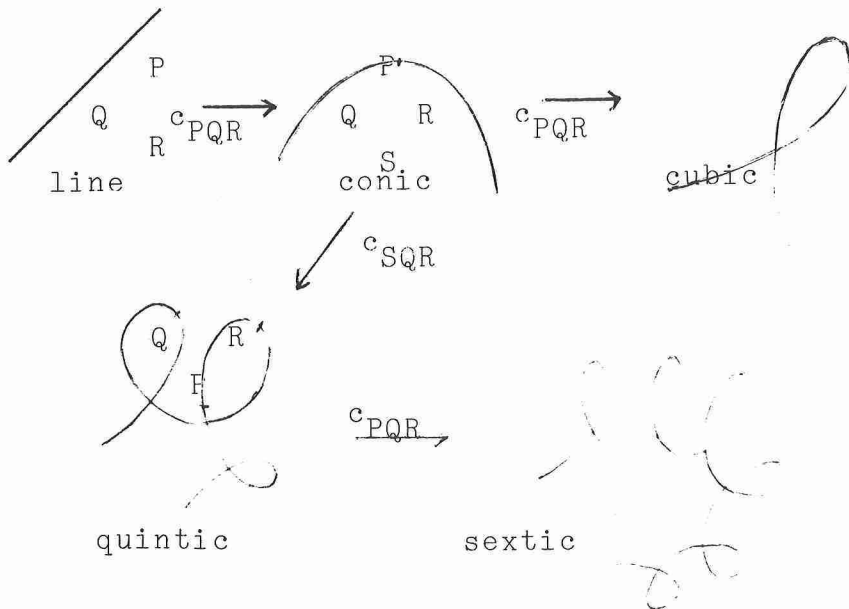
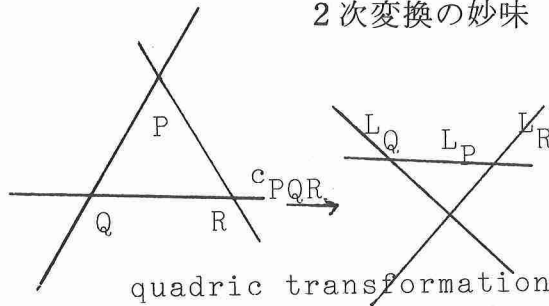


廣報

東京大学理学部

2次変換の妙味



目次

シカゴ大学の事など.....	江口 徹	2
教育者の素質と適性.....	床次 正安	3
理学部一号館		
運営委員会議録雑感...	宮本 健郎	4
ヴィルニウス・		
コンフェレンス	岡部 靖憲	5
定例学部長交渉		8
学部消息		9
ひとこと		10

2 次変換の妙味 (表紙の説明)

話は極めて初等的である。射影平面上の曲線、即ち、射影平面曲線に関して少し述べてみたい。射影平面上の共線でない3点 P, Q, R をとり、 $P = (1, 0, 0), Q = (0, 1, 0), R = (0, 0, 1)$ となるように同次座標を導入し、 $X_0 = Y_1 Y_2, X_1 = Y_2 Y_0, X_2 = Y_0 Y_1$ による変換を考えると、これを P, Q, R の定める2次変換といい、 c_{PQR} と記す。例えば、 P は $Y_1 = Y_2 = 0$ で、それは、 $X_0 = 0$ に移るから、 P は直線 L_P にのぼされる。一方、直線 QR は $Y_0 = 0$ と表されるから、 $(1, 0, 0)$ に移るとみなされる。即ち、3点 P, Q, R が3直線にひきのばされ、3直線 QR, RP, PQ が3点に縮んでしまう。

しかし、 P, Q, R を通らぬ直線 $\lambda_0 Y_0 + \lambda_1 Y_1 + \lambda_2 Y_2 = 0$ に対しては、 $Z = Y_0 Y_1 Y_2$ とおくと、 $Y_0 = Z \cdot X_1 X_2, X_1 = Z \cdot X_2 X_0, Y_2 = Z \cdot X_0 X_1$ をえるので、 $Z (\lambda_0 X_1 X_2 + \lambda_1 X_2 X_0 + \lambda_2 X_0 X_1) = 0$ となり、 Z を無視することにより、2次曲線がえられる。又、2次曲線の上にはない3点をとって、2次変換を行うと、3個の2重点をもつ4次曲線ができ、さらにこの上の2重点でない3点をとって、2次変換を行えば、6個の2重点をもつ5次曲線がえられる。

しかし、このような操作で、2重点のみしか持たぬ6次以上の有理曲線は構成できないことが証明される。このことは経験的には明白なのであろう、例えば、10個の2重点をもつ6次曲線は有理曲線ではあっても、2次変換の合成により、直線にひき直すことはできない。2次変換により、曲線の見かけの形は大きく変化するが、基本的な性格はよく保存される。しかも次数の高い双有理変換に対しても2次変換は唯一つの構成要素なのである。このことは、代数多様体や複素多様体の双有理変換についても、基本的には成立している。2次変換は、不愉快な操作であるとされて、より精密な概念に置き換えられそうになったこともあるが、その重要性は近年益々明らかにされ、必要悪から、根本的に善なる存在とみなされるようになりつつある。(飯高 茂)

シカゴ大学の事など

江口 徹 (物理学教室)

広報係の方から新任教官としての自己紹介をかねて何か書くようにというおすすめのので、私が昨年末まで6年余り過ごした米国の様子、特にシカゴの町と大学の様子を中心に書く事にします。

私が米国に渡ったのは1974年の夏で、シカゴ大学(74~76, 78~80)とスタンフォード大学(76~78)に籍をおきました。米国の印象は一言に言って極めて多様で巨大な国で、単一民族が狭い国土に住んでいる状況に慣れた者にとってはいささかとらえどころがないといった感じでした。たとえばシカゴの町とスタンフォード大学のあるサンフランシスコ郊外とは、気候も風土も全く異なっており、生活様式にもかなりの違いがあります。特にニューヨーク、シカゴのような大都会ではスラムとか犯罪とかいった都市特有の問題をかかえており、大都会以外の米国とは際だった対称をなしています。

シカゴの町は五大湖の1つのミシガン湖に面し、米国のほぼ中央部に位置する米国第2の都会です。イリノイ州、ウィスコンシン州、オハイオ州などで代表される米国の中西部は、ニューヨーク・ボストンなど国際的な色あいの強い東部や、急進的なカリフォルニアに代表される西部とちがって、何となく泥くさい感じがしますが、勤勉・実直な典型的米国人の住む所だとされています。

シカゴ大学は、down town (高層ビルのある市の中心街)から南へ10マイルほどの所であって、キャンパスの周囲2マイル四方に大学関係者が集中して住んでおり、その外側はスラムに囲まれています。シカゴにいる間よく治安についてたずねられましたが、残念ながらあまりよいとは言えません。夜遅く1人歩きしないというようなルールを守って生活する限り事故にあう事はほとんど

ないようでしたが、学生の人などは慣れからだんだん大胆になって、無理をして被害にあうという事が時折あったようです。

シカゴ大学が日本で知られているとすれば、多分Fermiらによって原子核の連鎖反応が初めて実現された所としてだと思いますが、原子炉があった場所は現在図書館がたっており、その前の芝生に記念の彫刻が置いてあります。ここで行なわれた実験が、広島・長崎の原爆へとそのままつながっていったわけで、日本人として複雑な気持ちします。

私の関係した物理学教室は、現在、南部陽一郎(素粒子論)、S. Chandrasekhar(天体物理)、L. Kadanoff(統計物理)、J. Cronin(高エネルギー実験)、U. Fano(原子物理)、E. Parker(プラズマ)、ら著名な研究者をかかえており、Fermi以来の伝統を受け継いでいます。南部教授は、私が特にお世話になった方ですが、日本人教授は、他に、藤田哲也教授(気象)、入江昭教授(国際政治)らがいて大いに活躍されています。

ここ数年アメリカの経済は著く不調で、多くの私立大学がその影響を受けて経営に困難をきたしています。シカゴ大学もfacultyの5%削減などの努力で、なんとか2~3年前にどん底を脱したようですが、人文系での学生数の減少が大きな問題になっていました。これは、全体にアメリカで高等教育を受ける人間が減っているためで、その原因としては高等教育を卒業してもそれにふさわしい職が得られない事が上げられています。

米国では研究者間の競争が日本よりはげしいと言われます。これは確かにそのとおりでと思いますが、私の感じた所ではむしろ研究者という者に対する社会の通念にかなりの違いがあるような気

がします。日本の場合、大学の教官や研究者は何か高い職業に従事している者として、社会の変動その他から保護されるべき存在であるとされているようですが、米国の場合、研究者はその専門知識という特殊技能によって生活をたてている一種のプロフェッショナルで、その意味で、プロ野球の選手やフットボールの選手と異なる所がないといった通念があります。そこで研究者といえども特別に保護されるべきでなく、社会一般の自由競争の原理に従うべきものであると考えられます。

研究費に関しては、まだまだ日本は貧困のようです。米国では、研究費（NSF、DOEなどの政府機関からくる）から博士コースの学生の奨学金秘書の給料、助手の給料、教官の給料の一部などをまかなうので直接比較できませんが、理論の場合でも日本の10倍位はあると思います。米国の場合（理科系）、日本の助手にあたるのはいわゆる post-doctoral position といわれるものですが、これは大学の正規の職ではなく教官の研究費によって個人的にやとわれるもので、研究の成果があがると研究費も増えて、元気のいい若い人

を沢山雇えるという仕掛になっています。ただし、近年では大学のポストの不足のため、post-doctoral position から正規の職に上がる事のできない人が増え、2年位の任期で職場を転々と渡り歩かなければならないという状況が増えています。

以上、雑然と書いてきましたが、最後につけ加えますと、一昨年あたりから米国で日本に対する関心が急激に高まり、「なぜ日本の経済はうまくいくのか？」といった問題意識で、テレビでも日本の自動車会社や、満員電車、受験競争、お見合いなどの様子が何度も放送されました。海外にいる日本人としてこうした日本ブームには誇らしい気がしましたが、同時にはたしてそんなにうまくいっているのかといった面映ゆい感もありました。確かに日本は比較的高い水準の労働力や商品を大量に作り出す点で成功をおさめてきたといえると思いますが、これからはさらに先進的、独創的な科学技術の開発が必要とされていくはずで、こうした点からいっても、大学における研究、教育の責任はますます重くなっていくと思われま

教育者の素質と適性

床 次 正 安（鉱物学教室）

徳島大学教育学部の集中講義には驚きました。冬休みの始まる12月23日から御用納めの日まで1週間とのことです。最上級生の単位ですが、下級生も出席させるとの話です。成績に無関係な3年はもちろん、4年生もその時期には就職も決まっているはずで、講義など身を入れるはずがありません。

回折結晶学、ことに、X線回折による原子的構造の決定法は、地学ばかりか物性物理学や化学の最も基礎になる分野ですが、学部の講義でとりあげられることはめつたに有りません。機会さえ与え

られれば尻尾を振って宣伝に行く気で居りましたから、聞き手が一人でも居てくれれば結構というつもりで、X線回折カメラなどを車に積込んででかけました。ところが、単位を取得するとかしないとかに無関係に、3、4年生が全員出席して、朝から晩まで、真面目に聞いてくれるのです。

その年度の人にかぎりません。翌々年度には、最上級生の卒業の可否を決める会議も終って、卒業式だけを残している時期に、同じく一週間の集中講義を行ないました。最終学校終了から就職までの期間は、人生最後の休みではないにしても、

各人の前半生では最も大切な休暇のはずです。集中講義の単位も先付けで優が記されており、判定会議後に取消される心配もないわけですが、全員郷里にも帰らず、旅行もせず、小生の講義をききました。例により、単位を貰わない2、3年生も同様でした。この年は私にとっては二度目の経験で覚悟ができていたので驚きはしませんでした、それでも呆れました。

近年の学生気質を理解している訳ではありませんが、理学部だったらどこかの大学にせよそれほど無茶苦茶な真面目人間ばかりではないと思います。冬休み中や春休み中の講義に全員出席などということは、教育学部でなければ有り得ないことでしょう。どうも教職に就こうと志すほどの人間は、生まれながらに生真面目な人種に属するらしいと考えざるを得ません。でもしか教師などという悪口は、実情を知らない人の言種に違いありません。

そこで考えたのですが、学校教育に於て、先生という先生が皆、教師を天職としているという状態が望ましいかということです。怠惰な生徒や、非行に走る心理は、ある程度、そういった性癖のある教師でなければ理解できないのではないのでしょうか。全員が怠け者である必要はありませんが、

何人かに一人は教師に適わしくない様な人柄の先生が居た方が、学校全体をうまく運営できるのではないのでしょうか。

徳育に限らず知育についても同様なことは考えられないのでしょうか。小学校は、全教科を一人の先生が教えるから、割合に良いのですが、中学以上になると、特定の学科が得意であった人がその学科を教えるようになります。その結果として劣等感を持っている生徒が落ちこぼれて行くのではないのでしょうか。先生ができれば生徒達も、あの程度まではできるという安心感を持てるのではないかと思います。その場合、出来の良い若干の生徒の反応はわかりませんが、たいして弊害は生じないでしょう。教師のうちの多数は今まで通りその学科の人を残して、水準の下落は防ぐことにして、一部分はその学科が不得手な人に分担させることはできないのでしょうか。小生自身は、第二外国語を教えたくてたまりません。教養課程で習っただけでなく二年間もその言葉の中で暮したのに少しもできないのです。それでも私が教えれば生徒の中から一人も脱落者を出さない自信があるのです。如何なものでしょう。

理学部 1 号館 運営委員会議事録 雑感

宮本健郎（物理学教室）

20数年ぶりにこの本郷キャンパスにUターンしてきて1年有余になる。学生時代の良き思い出が残っていたせいか、昔はもっと調和のとれた清潔なキャンパスではなかったかという思いに、最初とらわれた。確かに20数年の間に日本は高度成長を遂げ、世間一般の建物が立派になったし、またプリンストン大学やケンブリッジ大学の塵一つなく整備されたキャンパスに強い印象を受けたりして、比較水準が高くなっているせいかも知れない。

しかし、まわりの環境と不調和な建物が建っていたり屋上につきはぎの建物が重なっていたり、建物のまわりに色々のものが無秩序に置かれたりしているのを見ると、色々の事情はあるにせよ、もう少し大学全体として、キャンパスの景観に神経をはらってもよかったのではないかと思ったりしてもみた。

そうこうしている内に、現実の本郷キャンパスに馴み始めた頃、56年度より、理学部1号館の運

営委員長という重責をお引き受けするはめになってしまった。前委員長の霜田光一先生より引き継ぎを受けた議事録は昭和27年にまでさかのぼる。色あせた紙に書かれた議事録を眺めていると、これまで先輩の先生方がいろいろ議論を重ねながら一步一步研究環境の改善に努力を積み上げてこられた様子がしのばれる。

1号館運営委員会のはしりは、昭和29年の1号館増築（北側）に関する相談会である。昭和27年12月5日の第1回相談会のメモを眺めると、メンバーは、芽理学部長、田坂事務官、藤田（天文）、弥永（数学）、今井、平田（物理）、正野、松沢（地物）の先生方である。第Ⅰ期増築（南側）が29年8月、第Ⅱ期増築（南側）が30年3月完成である。相談会は5回で終わっている。

第1回1号館運営委員会が開かれたのは、30年3月25日である。平田森三先生が委員長で、メンバーは弥永（数学）鏑木（天文）、久保（物理）日高、磯野（地物）田坂（事務）の方々である。第5回（30年）の議事録では相つぐ盗難事件の発生で、南側通用口の閉鎖が検討された。その可否についてのアンケートがとられ78:8で不賛成という結果が出ている。結局午前8時から午後6時までだけ通用口を明けることになった。昭和33年第Ⅲ期増築（西側）、34年度に天文、地物か理学部3号館（浅野キャンパス）に移転、37年3月、第Ⅳ期増築（西側、計算機センター）が完成、そ

して昭和41年3月平田先生の後を霜田先生が引継がれた。

第24日（41年6月22日）のメンバーは霜田（委員長）、弥永（数学）、久保、後藤、飯田（物理）永田（地物）高宮（生化）、吉野、杉森、岡野（事務）の方々である。41年10月に物理学会事務室が1号館から立退き、41年第Ⅴ期増築（4階、数学）が完成とある、第28回（44年1月28日）では学園紛争による被害補修費、用務員の被害見舞金の負担についての議題があり、当時の御苦労の様子がしのばれる。44年理学部4号館完成、51年3月第Ⅶ期増築（4階、物理）、55年増築部分の外壁レンガ張り、56年3月防火扉の設置があり、第49回の運営委で霜田先生より運営委員長をお引き受けすることになった。

ここ一年の間に1号館の外壁が落ちついた色調の赤レンガで統一され、防火扉の設置で階段まわりが一新された。1号館はたしかに古い建物ではあるけれどもたえず整備され、タバコのすいがらやごみ等がちらかっていることなく清潔に保たれておれば、新しい建物にはない、古き伝統を感じさせる荘重な雰囲気がある。議事録を眺めて先輩の方々御努力をしのび、民主的な運営の伝統を引継ぎ、皆様方の御協力をえながらこれからの1号館の運営に努力をしたいと思った次第である。

ヴィルニウス コンフェランス

岡部 靖 憲（数学教室）

確率論と数理統計に関する第3回ヴィルニウス・コンフェランスが、6月22日より6月27日迄、ソ連のリトワニア共和国の首都ヴィルニウスにおいて行われた。この方面の国際的なシンポジウムであったパークレイ・シンポジウムがヴェトナム

戦争の終結と前後して終わり、その後の役割を演じつつあり、第1回が1973年に、その後4年毎に開催されている。ソ連のこの方面の研究者はほとんどすべて参加し、今回は、アメリカ、フランス、ドイツ、日本、インド、オーストラリア、イギリ

スなど20ヶ国の外国からの参加があり、人数は450人位と聞いた。

詳しい内容の説明の前に、リトワニア共和国、その首都ヴィルニウスの地理的・歴史的説明をする。今年始めより、「ポーランド危機」と関連して、ソ連と東欧諸国の合同演習のニュースを耳にするが、最近（8月）行われているのがバルト海沿岸であり、リトワニア共和国は、いわゆるバルト海三国（エストニア・ラトヴィア・リトワニア）の一番南に位置し、国境をポーランドと接している。モスクワの西南94キロにあり、飛行機で1時間15分かかり、ヴィルニウス市内の中心をネリス川が流れ、人口49万で、道路・建物の表示は、リトワニア語とロシア語が併用されていた。緯度は札幌より高いが、とても暖かで、のんびりした緑の多い静かな町であった。

歴史のある共和国はどこも同じと聞かすが、リトワニア共和国でも日常語はリトワニア語を用い、ロシア語は小学校から学ぶが、授業でしか、それも週に2、3時間と聞いた。リトワニア語は、サンスクリット語などと同じ位古く、文字はアルファベットを用いており、それだけに配列の相違（英語と比較して）が、その意味を理解させにくくしていた。しかし、リトワニアの人は、この自国語を用いて話すことに誇りをもち、ロシア語を用いることに反感をもっている節があった。たとえば、こんなことがあった。以前から知りあいのリトワニアの数学者 Mackevivius とその弟子の Eidukevivius に市内を案内してもらい、市の象徴であるヴィルニウス城で3人の記念写真を誰かに写してもらおうとM氏に尋み、助けにきてくれた人に、私が英語で「シャッターの位置はここです」といったとき、M氏は、「アッチュ」といったので、シャッターの位置をリトワニア語で「アッチュ」というのかと早合点した。写し終わったあと「スパシーバー」とロシア語でいうと、M氏は「アッチュ」は「ありがとう」を意味するリトワニア語

で「スパシーバー」はロシア語です」と。この様な愛国心は、形こそちがうが何回も目にし、他の共和国以上の様に思えた。それをいく分なりとも理解するために、旅行案内書を見ると、1323年にゲジミナス公が城をヴィルニウスに築いたのが、この国の初まりで、1795年にロシアに合併され、ロシアの10月革命後の1918年1月にソヴィエト権力下に入ったが、1920年10月から1939年迄ポーランドの支配下に入り、1939年9月ソ連軍が進駐してきて、ソヴィエトの共和国のひとつとして、1940年リトワニア共和国ができたが、1941年から1944年迄、今度はドイツによって占領されていた。コンフェランスの開期中、ロシア人、アメリカ人、イタリア人など5人招待してくれた Surgailis は「自分の父親はポーランド人であった」といい、招待客の女性は、「自分の祖父はリトワニアからアメリカへきました」といい、「ポーランド危機」に関して、ロシア人をこめて議論していた。本当のところは理解できなかったが、日本で考えられている以上に感心が高いが、情報が少ない様であった：3年前に、ソ連からアメリカへ移った数学者 Dynkin と同じ大学にいるアメリカ人がいうには、「彼がアメリカにきた日すぐに、アメリカ人は誰も買わない300頁もの新聞を買っていたよ」と、すると招待客のロシア人は「誰も買わないその様な新聞が何故あるのか」と。

話をかえて旅の恥をひとつ。ホテルでの朝食は、ガラス越しに陳列されている物を注文して食べるのだが、自分の番になって、運悪く陳列されているものがなくなると、指で注文していた私は大変困った。勘定も、ソロバンを見ながら大体の見当をつけて大目に紙幣で払うため、日が経つにつれて、小銭がたまって困るため、ソ連の研究仲間がいる心強さか、「旅の恥はかき捨て」とばかり、手のひらに小銭をのせて店の女性にとってもらったことがあった。私の住む柏での祭り（8月）に、ポートピア帰りに参加したアメリカのチアリーダー

ルがアイスクリームを買う場面を目にしたとき、彼女達も指でさして注文していた。どこの国の人も同じだなあと感じ、ヴィルニウスのことになつかしくおもいだされた。

最後に、コンフェランスの内容について述べる。会場は市内から北へ車で20分程の所でヴィルニウス大学の工学部の建物内で行われた。唯ひとつのヴィルニウス大学は、1579年に建てられ、数学教室、化学教室などはまだ市内にあるが、3、4年後にはこの場所へ移転すると聞いた。朝10時からと昼4時からと、それぞれ3時間半ずつ合計7時間にわたり、5つの部門に別れて併行して行われた。日本よりは、丸山儀四郎先生、飛田武幸氏、西尾真喜子さんと私の4人で、私は主として、確率場、統計物理学とマーチンゲールの部門に出席した。極限定理は、確率論における主要な研究対象であるが、最近、物理学、生物学との境界領域より、無限次元空間上の、大事なことだが具体性をもった極限定理の研究がおこり、マーチンゲールの理論を用いた解析が必要不可欠になりつつある。これに関連して、Sinaiの「ローレンツガスとランダムウォーク」、Molchanovの「ランダムな多次元Schrödinger作用素のスペクトルの性質」、Novikovの「加法過程に対する非線型問題へのマーチンゲール接近」、Rostの「確率粒子系の流体力学的極限」が特に印象をうけた。Molchanovは、 \mathbf{Z}^d を時間係数にもつ独立同分布な定常場をポテンシャルにもつ \mathbf{Z}^d 上のSchrödinger作用素に対して、定常場のスペクトル密度が \mathbf{R}^d をこえたslip上迄解析接続される時、Schrödinger作用素は、次元dが5以上のとき、離散スペクトルをもたないことを示した。3年前、Molchanovは、 \mathbf{R}^1 上のマルコフ型のポテンシャルに対しては、Schrödinger作用素は、確率1で離散スペクトルしかもたないことを示していた。ホテルの室が隣りなので、講演の前の晩、話をしたとき、「次元が、2、3、4の時はスペク

トルは、離散と連続とは混在するかもしれない。Feymann積分に似たものを用いる」といていたのだが、彼が講演中に話した、 \mathbf{Z}^d 上のSchrödinger方程式の解を、 \mathbf{Z}^d 上のラプラシアンに対応するマルコフ過程の測度を用いて、explicitに表現する公式には驚いた。 \mathbf{R}^d 上の場合にかかる公式は得られていないが、重要な指針を与えるものと思われる。私は、「T-正値性、 $[\alpha, \beta, r]$ ーランジュヴァン方程式と揺動散逸定理」という題で、非線型拡散方程式に対する揺動散逸定理がいかなる数学的構造をもって得られるかについて話した。数多い部門のうち、Sinaiが聞きに来てくれていたが、翌日、丸山先生より、「Sinaiが岡部の数学はよい。誰と一緒にやっているのか」といったたよと教えてもらったときは、Sinaiが今年の初め来日していた時、会えなかっただけに、これ程うれしいことはなかった。どんな歳になっても、自分の仕事を理解してほめてもらうことはうれしいことであり、今後の強い張り合いになる。

コンフェランスの開期中一日を使って、ヴィルニウスより北へバスで2時間程の所にある湖へキャンプにいった。ソ連の人は、実に「よく遊びよく遊べ」の如く、水泳・バスケット・サッカーと体を動かしてきたえていた。Kolmogorovも80才に近いと思われるが元気に参加されておられた。前からの知り合いの人、新しく知り合えた人との再会を期して、Molchanovの数学はもちろんのこと、彼のロシア語の迫力・美しさにひきつけられ、今度こそロシア語をものにすべく決意して、6月28日ヴィルニウスをあとにした。

1981年7月定例学部長交渉

7月度定例学部長交渉は、7月23日、理学部会議室でおこなわれた。

出席者：理学部側 西島学部長、江上評議員、
田村事務長以下4名

組合側 伊藤委員長以下10名

交渉に先立ち、行(→)6等級の事務職員4名の5等級昇格が理学部側の尽力もあって、7月1日付で実現したことについて組合側より感謝の意が表された。ついで、交渉は組合側からあらかじめ提出されていた8項目の議題のうち、予備折衝で了解に達した事項をのぞく数項目について行われた。主な内容は以下のとおりである。

1. 教務職員(教(→)5等級)の頭打ちの解消について

教務職員の頭打ちの問題は、全国でも東大、東大でも理学部において特に深刻な状況になっていることについて、組合側から具体的資料にもとづいて説明がなされた。

☆ (人事院調べ。卒外者数)

昭和54年1月 全国で1.14%(1583名のうち)

昭和55年1月 全国で2.75%(1602名のうち)

☆ 55年1月現在の理学部との比較

全国: 1602名中 卒外 44名 2.75%

東大: 254名中 卒外 26名 10.2%

理学部 18名中 卒外 7名 38.9%

その後の議論を経て、学部長より以下の点が表明された。

① 号俸足のばしがりやが実現できるように理学部として努力する。

② ①をふくめて、頭打ちになっている職員の救済のためにどんなことが可能かを、次回もしくは次々回の交渉までに調べておく。

2. 1号館中庭の運動コートの補修について
組合の強い要望によって作られた理学部唯一の厚生施設、1号館中庭コートが、事実上つかえなくなっている現状について、組合側より強い不満が表明された。中庭には現在、中間子の施設建設中であることに鑑み、具体的な措置について組合側と当局側で事務的な協議をおこなうことで両者が一致した。

3. 理学部附属諸室貸付規程について

理学部広報7月号の上記の内容について組合側より質問がなされ、組合の行事による部屋使用に関しては従来どおりであることが、学部長より確約された。

(以上)

毎月1日は

「省エネルギー」

の日です。

< 学部消息 >

教 授 会 メ モ

7月15日(水) 定例教授会

理学部 4号館1320号室

議 題

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| (1) 前回議事録承認 | (6) 昭和56年度受託研究員の受入れについて |
| (2) 人事異動等報告 | (7) 寄附の受入れについて |
| (3) 教養学部第四学期専門科目履修規則の一部を改正する規則(案) | (8) 人事委員会報告 |
| (4) 昭和56年度教職免許教科に関する認定科目表について | (9) 会計委員会報告 |
| (5) 昭和56年度奨励研究員の受入れについて | (10) その他 |
- (次回予定：9月16日(水)午後1時30分より)

○ 昭和56年度職員一般定期健康診断の実施 について(お知らせ)

例年どおり、下記により実施しますので、必ず受診してください。

については、指定日に都合等で受診できない方は、予じめ事務部庶務掛(斉田・菊池,内線4005)までお知らせください。

記

日 時 男	9月30日(水)午前9:30～11:30 (予備日 10月6日(火) 午後1:00～3:00)
女	10月5日(月)午前9:30～11:30 (予備日 10月6日(火) 午前9:30～11:30)

場 所 保健センター

また、都合等により受診されなかった方は、他の医療機関等にて、当該検査項目について検査を受けていただき、その結果を証明する書面(診断書等)を11月21日(土)までに事務部庶務掛まで提出していただくことになっております。

なお、詳細については、教室・施設事務室又は事務部庶務掛までお尋ねください。

(附) 定期健康診断問診表(全員)及び肝機能検査受検票(受診対象者のみ)に、必要事項を記入のうえ、受診当日必ず持参していただくようになっております。

○ 消防署による立入検査・結果

消防法に基づき、本郷消防署による理学部全館の防火対象物の立入検査が今年も、さる7月8日・9日の両日行われました。

このたび、同検査結果が文書で通知があり、概ね次のような違反指摘、指導事項等があり、かか

る事項についての改修状況及び計画を求められました。

- 地震防災応急計画の未整備
- 震災時等における危険物品等の転倒落下防止措置不適

- 屋内消火栓の取扱い訓練未実施等
- 少量危険物貯蔵取扱所の標識及び掲示板未掲示
- 避難口誘導灯非常電源容量不足
- 消防用設備等（消火器，誘導灯，自動火災報知設備，屋内消火栓設備，避難器具等）の点検

結果の未報告

- 危険物施設の設置者変更に伴う資料無届
- 屋内消火栓，防火区画の未設置 etc

防災対策は・・・
大切なふだんの備えと
心がまえ！

○ひとこと

理学部広報をまたも手にした。一般に広報誌紙は昨今の超情報化時代にあって，相当なる使命を担うものであろう。

本広報も内容からすると，それなりの目的をもちも，編集発行されてると察するが，読者・対象人

のひとりとして，昭和44年1月15日創刊の本誌をより一層活用し，真価をみいだすべくに，こゝで改めて，ひろく理学部広報の目的，性格，編集方針，内容等についてご教示してはいただけまいか。

(匿名)

「誤植のおわび」

昭和56年7月の11頁，上から7行目は，高工研ではなく，高エ研。同8行目。若林健之先生の異動内容は，助教授に併任ではなく，昇任です。編

集係としての不注意に起因したことです。お詫び申し上げます。

編集後記

今回は，事務関係の記事が少いので発行があやぶまれたが，新任の江口徹先生，床次正安先生の御原稿がいただけるなどして，充実した巻をつく

ることができた。御協力を感謝し，今後も変らぬ御援助をお願いする（飯高）。

● 泥棒がねらっている（盗難注意）

本郷構内は泥棒天国といわれています。いたるところで泥棒（盗難）の被害にあっています。あなたのちょっとした注意で被害をくいとめられます。

あなたです！

火事を出すのも

防ぐのも

編集：

飯高	茂	(数学)	内線	4053
矢崎	紘一	(物理)		4123
小平	桂一	(天文)		4258
露木	孝彦	(化学)		4357
尾本	恵市	(人類)		4482
